

# 橈骨遠位端骨折の A0 分類 C3 型の治療成績についての検討

## 1. 研究の対象

当院にて橈骨遠位端骨折と診断され掌側ロッキングプレート固定術をされた患者を対象とする。

## 2. 研究目的・方法

橈骨遠位端骨折に対して当院にて掌側ロッキングプレート固定術を行った患者を対象とし、カルテより手術やリハビリ情報を後ろ向きに確認する。骨折型により 2 群に分類し、術直後および最終評価時での関節可動域 (ROM) の患健比、レントゲンパラメーター (RI、VT、UV)、矯正損失の治療成績を比較する。症例予定数は 50 例とする。骨折型に関わらず早期からの ROM 訓練や矯正損失を起こさないような方法での ROM 訓練は有効であることを研究することを目的とする。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：前腕および手関節の関節可動域の健側比、レントゲンパラメーター (RI、VT、UV)、矯正損失など

## 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

京都中部総合医療センター 患者相談係

研究責任者：

京都中部総合医療センター リハビリテーション科 療法士次長 恩村 直人

-----以上